



見渡す限り平坦な 景色に驚きました

山田高 横田^{きや}早也^か華^{さん}

わたしが一番初めに驚いたことは、見渡した風景の中に山がまったくないことです。国土の

ほとんどが平地であるオランダと、山の多い日本との景色の違いは歴然でした。オランダで有名な風車は、低い土地から水をかき出すため、この国にはなくてはならないものであり、いたるところにたくさんありました。日本では見ることのできないような光景ばかりでした。これからも山田町とオランダの交流を続けていく上で、もっと日本の文化や山田町のことを伝え、山田町とオランダの懸け橋になりたいと思いました。

伝統ある街並みに 感動を覚えました

山田高 笹原^{しん}心^{くん}君

オランダに着いてまず目に入ったのは、大きな建物が整然と並んでいる風景。土地は平らで、どこまでも続くかのように広がっていました。ザイスト市内では木々がいたるところに見られ、高いビルなどの代わりに家々が等間隔に並んでいて、とても静かな雰囲気に包まれていました。また、ユトレヒトでは古くから大切に守られてきたレンガ造りの家が立ち並んでいて、土地の人が昔から現代に伝えてきた伝統というものに最高の感動を覚えました。景色や街並みに圧倒されっぱなしの日々でしたが、ぜひもう一度行きたいと思いました。

主な行動日程

1月7日…本町出発 8日…アムステルダム着 9日…大堤防、国立博物館、ゴッホ美術館など見学／ホームステイ先へ（15日までザイスト市内でホームステイ）
10日…CLZ校で歓迎セレモニー／ケルケボッシュ校見学／ザイスト市役所表敬訪問 10日～12日…CLZ校の授業に参加 13日…終日ホストファミリーと過ごす
14日…キンデルダイク風車保存地区、アンネ・フランクハウス、木靴工場見学 15日…アムステルダム日本人学校訪問／在蘭日本大使館表敬訪問 16日…ホストファミリーとお別れ／ユトレヒト市内見学（オルゴール博物館、ドム教会、デ・ハール城など）／アムステルダム発 18日…帰町

言葉の壁を超えた スポーツでの交流

豊間根中 佐々木^{ゆうま}雄磨^{くん}君



オランダの人気のスポーツはサッカー、ホッケーなどです。外にはたくさんの専用グラウンドがあり、とても良い環境の中でスポーツをしていることが分かりました。CLZ校の体育の授業でバスケットボールやドッジボールをしました。ドッジボールではたくさんの友達と会話をし、みんなでスポーツを楽しむことができました。たとえば言葉は通じなくても、スポーツでほかの国の人と交流ができるということを肌で感じ、とてもうれしかったです。これからも山田とオランダの交流を深まっていってほしいと思います。

その日の夕方、いよいよザイスト市に到着。生徒たちはホストファミリーと顔合わせした後、それぞれのホームステイ先へと向かいました。

翌日、元気に登校した生徒たちから昨晩の楽しかった交流の様子を聞いて、引率者たちもほっとしました。引率者も三日間ホームステイをしました。生徒十人分の自慢話をお互いに聞きました。お互いに涙、涙の辛い別れでした。「いつかきくと会おうよ」そんな言葉とともにザイストを出発しました。思い出が凝縮された、夢のような十二日間でした。

午前中に大堤防を見学し、その雄大さに感銘を受けました。大堤防を築いたオランダの先人たちの偉大さを、全身で感じる事ができました。その後昼食を取り、アムステルダム市内を見学。車窓からの街並みはヨーロッパらしい落ち着いた美しいたたずまいで、どこを写真に撮っても絵になる風景でした。国立博物館ではレンブラントやフェルメール、ゴッホ美術館ではゴッホの絵を山口さんの解説でじっくりと鑑賞。美術好きの生徒にとっては至福の時であったことでしょう。

話を聞くのに大変でした。生徒たちの様子からも、とても良い交流ができたことが十分にうかがえました。

十日から十二日まで、生徒たちはCLZ校と一緒に授業を受けました。午前中授業に参加し、午後は専門校ケルケボッシュ校やザイスト市役所、ザイスト城、マウデン城などをホストファミリーと一緒に見学しました。

十三日はからりと晴れた一日で終日ホストファミリーと過ごし、その夜お別れパーティーが開かれました。使節団は恒例の「ロック・ソラン節」や柔道などを披露し、観客から大喝采を浴びました。横田さんは静まり返った中で、迫力ある空手の演舞を披露。日蘭両国から賞賛の声が上がりました。

十四日にはキンデルダイク風車保存地区やアンネ・フランクハウスなどを見学。十五日にはアムステルダム日本人学校を訪問し、同校の生徒たちと交流したほか、在蘭日本大使館を表敬訪問しました。

十六日は、ホストファミリーとお別れの日。お互いに涙、涙の辛い別れでした。「いつかきくと会おうよ」そんな言葉とともにザイストを出発しました。思い出が凝縮された、夢のような十二日間でした。

皆さんの思い出 忘れない



友好の地 オランダを訪ねて

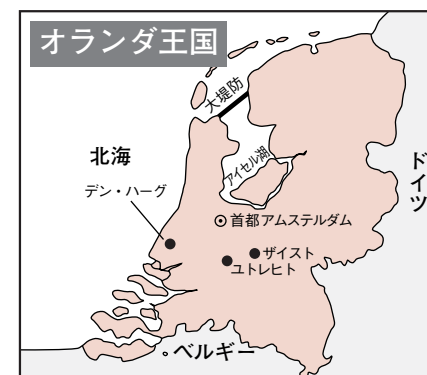
町ジュニア海外使節団交流記



団長の山名秀樹教頭

山田中学校の山名教頭を団長とし、豊間根中・山田中の二年生八人と山田高校の二年生二人、そして引率者二人の山田町ジュニア海外使節団十三人は一月七日、元気に本町を出発しました。出発式では多くの方々から激励をいただき、緊張の中にもこれから始まる十二日間の旅への期待感をみなぎらせていました。

翌八日、成田空港から出国し一路オランダ王国、スキポール空港へ。空路十二時間の長旅となりましたが、生徒たちにとっては楽しいひとときで、機内食もきれいに平らげていました。スキポール空港に到着すると、



オランダを訪問した町ジュニア海外使節団（中学生八人、高校生二人）は一月七日から十八日までの日程を終え、無事帰国しました。江戸時代にオランダ船ブレンスケン号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への派遣も、今年で十一回目。生徒十人は友好都市ザイスト市でのホームステイや学校での授業体験を通じ、現地の人たちと友情を深めました。今号では、生徒たちの体験談とあわせて、交流の模様を団長の山名秀樹教頭がレポートします。